

令和4年度  
市民自治を考える市民ワークショップ  
運営業務

報 告 書

令和5年3月

札幌市市民文化局市民自治推進室



# 目 次

第1章 開催概要.....	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) ワークショップテーマ.....	1
(2) 参加者選出.....	1
(3) 開催日時等.....	1
第2章 ワークショップの実施方法.....	2
1 当日のスケジュール.....	2
2 ワークショップにあたって.....	3
3 ワークショップの概要.....	4
(1) グループの編成.....	4
(2) ワークショップの流れ.....	4
第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施.....	5
1 情報提供.....	5
(1) 情報提供①『市民参加がなぜ必要か』と『札幌市自治基本条例』について.....	5
(2) 情報提供②市民参加の5つの形態と具体例・事例について.....	5
(3) 情報提供③市民参加をもっと盛んにするための事例.....	7
2 ワークショップ.....	9
(1) ワークショップ①『市民参加のイメージの共有』.....	9
(2) ワークショップ②「市民参加をもっと盛んにするためには」.....	9
(3) ワークショップの結果.....	10
第4章 参加者アンケート.....	35
1 アンケート実施概要.....	35
2 アンケートの質問項目と結果.....	35
3 参加者アンケート結果のまとめ.....	43
(1) ワークショップ全体について.....	43
(2) 情報提供について.....	43
(3) ワークショップについて.....	43

第5章	配布資料	44
1	情報提供資料	44
2	アンケート票	53

# 第1章 開催概要

## 1 開催目的

札幌市では、市民が主役のまちづくり（市民自治）を進めるための基本的なルールである「札幌市自治基本条例」を定め、平成19年4月に施行した。

条例第31条第1項では、「市は、市民自治によるまちづくりに関する施策又は制度がこの条例の趣旨に沿って整備され、又は運用されているかどうかを評価し、必要な見直しを行うための仕組みを整備しなければならない」としており、市民自治の理念を具現化するには、市が市民自治によるまちづくりを実現するために行う取り組みを、市民や市が評価する仕組みが必要である。そこで今回、市民や市が取り組みの評価を行うにあたり、どのような評価方法や評価基準、判断材料などがあれば、より適切な評価ができるのかということについて、立場や年齢、ライフスタイルの異なる市民からも広く意見を聴取するため、市民の参加による「市民自治を考える市民ワークショップ」を実施した。

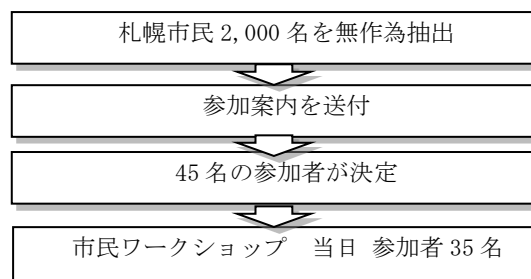
## 2 事業概要

### (1) ワークショップテーマ

「札幌の市民参加を高めるためには」

### (2) 参加者選出

日ごろ市政への参加機会が少ない方にも広く参加いただくことを目的として、無作為に抽出した札幌市民2,000名に対し参加案内を行い、参加者45名を決定した。その後、欠席連絡等があり、当日の参加者は35名であった。



#### ■参加者数内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男性	0	5	0	0	1	4	3	13	35
女性	1	3	1	3	4	3	7	22	

### (3) 開催日時等

子育て世代や仕事をしている方もいるため、できるだけ各世代の方が参加しやすいように、土曜日の開催とした。なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には後日振込で謝礼を支払った。

#### ■開催日時

日時	令和5年2月25日（土）13:00～16:00
場所	北海道立道民活動センター（かでの 2.7）4F 大会議室 （中央区北2条西7丁目）
参加者数	35人

## 第2章 ワークショップの実施方法

### 1 当日のタイムスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。

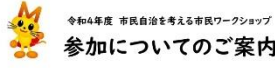
時間	内容
13:00	1. 開会、あいさつ
13:05	2. 情報提供① (10分) 『市民参加の必要性』と『札幌市自治基本条例』について ・なぜ市民参加が大事なのか ・札幌市自治基本条例の概要、情報共有・市民参加の状況など
13:15	3. 情報提供② (15分) 市民参加の形態5つと具体例について ・「情報の入手」「意見で参加」「議論で参加」「活動で参加」「お金で参加」の5つの形態の具体例や事例の紹介
13:30	4. ワークショップ① (30分) 「市民参加のイメージの共有」
14:00	5. 休憩 (10分)
14:10	6. 情報提供③ (10分) 市民参加を高めるための事例 ・意見で参加、議論で参加、活動で参加の三つに関連した事例の紹介
14:20	7. ワークショップ② (60分) 「市民参加を盛んにするためのアイデア」
15:20	8. 各グループから発表
15:45	9. まとめ
15:55	10. 閉会、アンケート記入



## 2 ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

### ■当日の案内



**令和4年度 市民自治を考える市民ワークショップ**  
**参加についてのご案内**

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前にお読みください。  
ご不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最後に掲載しています。）

【ワークショップの概要】

札幌市では、市民が主役のまちづくり（市民自治）を進めるための基本的なルールである「札幌市自治基本条例」を定め、平成19年4月に施行しました。  
市民が主役のまちづくりを実現するためには、市長の指揮・まちづくりの参加し、いただくことが必要不可欠です。条例でも、「市民参加」を重要なものとして位置付けています。  
皆様お1人お1人とうちの市民参加の権利が、また、「市民参加」を大切にし、思いのアイデアや意見について、グループで分けられた話し合いの意見や意見が、自由に意見を出し合い、話し合ってください。  
いただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。


**日時**  
令和5年2月25日（土）13:00～16:00（12:30受付開始）


- 受付には12:55までにお越しください。「参加者確認票 兼 口座振替申出書」をご提出ください。
- ワークショップ会場（大会議室）の開場は12:30頃を予定しています。

**会場**  
北海道立道庁センター（地下2F）大会議室  
（札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル4階）

- アクセス：地下鉄「さっぽろ」駅から徒歩5分  
地下鉄「大通」駅「西11丁目」駅から徒歩11分
- 参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。近隣の駐車場をご利用ください。
- 交通費、駐車場料金は参加者各自負担となりますのでご了承ください。

<会場付近案内>





<4階フロア図> 4F

【会場】  
大会議室

**当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）**  
「参加者確認票 兼 口座振替申出書」…この郵便に同封しています。

- 参加者確認票の記入先順序について、「口座振替申出書」欄の必要事項のご記載とご捺印をお願いします。
- ご記載にあたっては、「口座振替申出書」欄の注意事項（※1～5）をよくご覧ください。

**参加報酬について**  
全時間参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振替でお支払いいたします。

- 参加報酬は3,000円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、1か月程度での入金となります。
- 事前・当日のお支払いや、口座振替以外の方法でのお支払いはいたしません。
- 「参加者確認票 兼 口座振替申出書」を当日お忘れになった場合や、記載内容の誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よく確認の上、当日お早めにご持参ください。

**参加できなくなった場合**  
万一、参加できなくなった場合は、必ずご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- 今回のワークショップは、あらかじめ決まった参加者数をもとに準備しておりますので、特種のご事情がない限り、ご出席くださいようお願いいたします。
- やむを得ず参加できなくなった場合は、できるだけ早めにご連絡くださいようお願いいたします。

**当日、交通事情などにより遅れる場合**  
当日遅れる場合も、可能な限りご連絡をお願いします。（連絡先は最後に掲載）

- 天候によって移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもちにお出かけください。
- 会場へのご到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いします。ご連絡がなく、開始時刻から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断させていただきます。

**新型コロナウイルス感染症対策について**  
新型コロナウイルス感染予防のため、参加者の皆様は以下の事項をお守りください。

- 参加当日の朝は、検温等により体調をご確認ください。体調不良や発熱等がある場合は参加いただけませんので、下記のワークショップ当日連絡先までご連絡ください。
- マスクのご持参と着用
- 入室時の手指のアルコール消毒
- ※ 熱がある方（検温にて37.5度以上の体温が測定された方等）、咳やくしゃみが出る方、体調不良の方の退出いただき、不参加扱いさせていただきます（この場合、参加報酬はお支払いできません。ご了承ください）。
- ※ 上記以外にも、主催・運営スタッフの指示をお守りください。指示をお守りいただけない場合は退出いただき、不参加扱いさせていただきます（この場合、参加報酬はお支払いできません。ご了承ください）。

ご参加の皆様やご家族、主催・運営スタッフの健康と安全を守るためお願いします。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませようお願いします。

**その他**

- 館内・敷地内は禁煙ですので、喫煙はご遠慮ください。
- ワークショップ中は、携帯電話の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
- 本日のホームページに掲載するため、写真撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や写真家が入る可能性があります。本市や報道機関が撮影する行為や映像がテレビ映出の可能性がありまので、ご了承ください。

**ご連絡先・お問い合わせ先**

**平日** のご連絡・お問い合わせ先  
011-211-2253（札幌市役所 市民自治推進課）  
ご連絡可能な時間帯 8:45～12:15 または 13:00～17:15  
※ 時間帯には応答できない可能性があります。また、市役所開庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承ください。

**ワークショップ当日（2月25日）** のご連絡・お問い合わせ先  
090-4873-3561（当日の緊急連絡専用電話）  
ご連絡可能な時間帯 令和5年2月25日（土）12:00～13:30  
※ 上記時間帯以外には応答できませんので、あらかじめご了承ください。

### 3 ワークショップの概要

ワークショップは「札幌の市民参加を高めるために」をメインテーマに設定して、2部構成で行った。

#### (1) グループの編成

意見交換は8グループ（1グループ5名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①のイメージの共有から、ワークショップ②ではどうすれば市民参加が盛り上がるかを話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。



また、意見交換を円滑に進めるため、総合ファシリテーター1名と各テーブルにファシリテーターを1名ずつ計8名配置し、参加者の意見を引き出し、まとめた。

#### (2) ワークショップの流れ

##### 1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

##### 2) ワークショップ

##### ①「市民参加のイメージの共有」(30分)

###### 意見交換のポイント

- 情報提供を受けて、今までにどんな市民参加をしたことがあるかを誰と、どのようにも含めて教えてください。

##### ②「市民参加を盛んにするためのアイデア」(60分)

###### 意見交換のポイント

- どうすれば市民参加が高まるのかを、ワークショップ①で述べた意見から、市民参加を高めるための必要な要素である「情報」「場・機会」「メリット」をもとにイメージしてもらい、話し合います。
- そのイメージが盛り上がると今後どうなるのかをさらにイメージしてもらいます。

##### 3) グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、発表を行った。



##### 4) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。



## 第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施

### 1 情報提供

#### (1) 情報提供①『市民参加がなぜ必要か』と『札幌市自治基本条例』について

札幌市市民文化局市民自治推進室より、市民参加がなぜ必要とされているのか、札幌市の市民自治基本条例ができた背景や内容、現状の市民参加の件数について情報提供を行った。

#### (2) 情報提供②市民参加の5つの形態と具体例・事例について

株式会社 Glocal Design より、市民参加の形態となる「情報の入手」「意見で参加」「議論で参加」「活動で参加」「意見で参加」「お金で参加」の5つの形態から情報提供を行った。

### <市民参加の5つの形態>

#### ■情報の入手

##### ①広報さっぽろやパンフレットなど

- ・毎月発行される広報さっぽろや各区のお知らせ、パンフレットなど

##### ②札幌市ホームページやSNS（Facebook、LINE など）

- ・札幌市の LINE 公式アカウントなどでまちづくりの情報を入手することも市民参加の第一歩になる。

#### ■意見で参加

##### ①アンケート

- ・市政に関するアンケートに回答して参加。

##### ②パブリックコメント

- ・パブリックコメントは、札幌市の公表されている様々な計画に対して意見を言い、それに対して札幌市が回答するものです。



#### ■議論で参加

##### ①住民説明会への参加

- ・札幌市などの行政がまちづくりに関して説明する会に参加する。

##### ②審議会・委員会での参加

- ・札幌市が主催する、審議会（行政機関が意思決定を行う際に意見を求める複数人の機関）や委員会（上位機関のために作業する機関）に市民委員として参加する。

### ③全市的なテーマのワークショップ

- ・札幌市全体のまちづくりに関するテーマのワークショップに参加する

### ④地域的なテーマのワークショップ

- ・各区や町内会レベルで実施されるワークショップに参加する。



## ■活動に参加

### ①町内会活動に参加する

- ・ごみステーションの管理・清掃活動
- ・町内会での除排雪活動に協力・参加する。
- ・町内会での避難訓練へ参加し、災害時の助け合いをできるようにする。
- ・町内会などの子ども向けイベントの開催をする。



### ②NPOなどの活動に参加する

- ・NPO法人や任意団体の活動を通してまちづくりに参加する。

### ③ボランティア活動に参加する

### ④まちづくりのイベントに参加する

## ■お金でまちづくり活動に参加

### ①さぽーとほっと基金

- ・さぽーとほっと基金は、札幌市が皆さんからの寄付を募り、町内会・ボランティア団体・NPOなどのまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支える制度です。

### ②クラウドファンディング

### ③ふるさと納税



### (3) 情報提供③ 市民参加をもっと盛んにするための事例

市民参加が盛んになっている札幌のイメージを膨らませるため、活動・意見・議論に関する事例を紹介した。



#### ■事例1：兵庫県 尼崎市 あま咲きコイン（活動で参加）

### 1. 活動参加のメリット

#### (1) 兵庫県尼崎市 あま咲きコイン

- ・ 尼崎市では専用のアプリやカードを発行し、プリペイド型のチャージだけでなく、イベントやセミナーへの参加でもポイントが貯まる制度があります。
- ・ このポイントは1ポイント1円として市内の加盟店で使うことができ、市民参加の向上と地域活性化を進めています。

活動で参加

#### ■事例2：埼玉県 鶴ヶ島市 まちづくりポイント（活動で参加）

### (2) 埼玉県鶴ヶ島市 まちづくりポイント

- ・ 埼玉県の鶴ヶ島市でもポイントカードが発行されており、ポイントを貯め、商品券との交換や、自分の活動記録として活用されています。

活動で参加



ポイント取得方法とポイント用途	
取得方法	ポイント用途
イベント参加	100ポイント/回
ボランティア活動	500ポイント/回
まちづくり活動	1000ポイント/回
商品券との交換	1ポイント=1円
活動記録	1ポイント=1円

#### ■事例3：オープンハウス（意見で参加）

### 2. 身近に気軽に市民参加

#### オープンハウス

- ・ 公共空間などを活用し、通りがかった人に声をかけをして、積極的に意見を集める方法です。

意見で参加



札幌市 縦格ビジョンオープンハウス  
(地下鉄空間で実施)



丘珠空港の将来像(案)に関するオープンハウス  
(苗穂イオンモール)

■事例 4：台湾 vTaiwan（意見で参加 議論で参加）

3. ITでゲームのように市民参加 (1)vTaiwan(台湾の事例)

- 「vTaiwan」は台湾に居住する国民なら誰でも意見を投稿したり、他の人の意見に「いいね」したり、コメントでディスカッションしたりできます。
- 一つの提案に5000人以上の賛同者が集まると、行政側は必ず請願として受け付け、書面にて回答を出さなければなりません。
- SDGsにまつわるもの、かつ幅広い部門が関わるような提案については、ステークホルダーと関連の政府部門が参加して、議論することになっています。

議題

意見で参加 議論で参加

インターネット上にあるvTaiwanでの全国民からの意見の発言、投票

賛成 反対

5000人以上なら行政は請願として受付、書面にて回答

52

■事例 5：アメリカ Decidim（意見で参加 議論で参加）

(2)Decidim(アメリカの事例)

- Decidimは、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォーム。
- アメリカのニューヨークでは9歳から24歳の若者が参加でき、アイデアの提出・投票権を付与。投票には、紙の投票用紙・電話投票の手段もあります。
- ニーズ調査に対する回答者の中から抽選で50ドルのギフトカードが配られたりしています。

意見で参加 議論で参加

アイデア

例)たばこの吸い殻を捨てるごみ箱の増加  
簡易トイレの設置  
図書館の修理  
花や木を植える...

紙や電話での投票も受け付けている。

「Decidim」を使ったサイトからの投票、さらなるアイデアの投稿

予算・優先順位決定

図書館の修理...△△△△\$  
簡易トイレの設置...□□□\$  
ごみ箱の増加...○○○○\$  
花や木を植える...××××\$

53

## 2. ワークショップ

### (1) ワークショップ①『市民参加のイメージの共有』

札幌市における「市民参加の必要性」と「札幌市自治基本条例」の情報提供や、市民参加の形態と事例紹介（情報提供①・②）を受け、普段の生活の中で、どのような市民参加をしたことがあるか、また、市民参加を通して感じたことや、今後についてのイメージを話し合い、シールを貼った。市民参加の形態には、「情報」「意見」「活動」などを例として出し、ワークシートに記載することで、意見を促した。

**ワークショップ1の進め方**

市民参加のイメージ	
市民参加の形態	どんな参加をしたか？
意見で参加 ・アンケート ●●● ・説明会	市が進める事業のアンケートに回答したことがある 子ホで開催されていた時に意見を述べた
議論で参加 ・ワークショップ ● ・委員会・審議会	学生の時に、グループディスカッションに参加した 意見を言う機会は大切だが、言いづらくなる
活動で参加 ・町内会活動 ● ・NPO活動 ・ボランティア	子育てサロンの運営に関わったことがある 町内会活動は情報が多い気がする
お金で参加 ・ふるさと納税 ●● ・クラウドファンディング	気軽に参加しやすい返礼品があるのが良い

45

#### 意見交換のポイント

- 普段の生活の中で、参加したことがあるものにシールを貼り、どんな参加をしたかを教えてください。
- なぜ参加しようと思ったか、誰と参加したか、参加した感想はどうだったかを教えてください。

### (2) ワークショップ②「市民参加をもっと盛んにするためには」

ワークショップ①で市民参加のイメージを共有したのち、ワークショップ②では市民参加が盛んになっているイメージの事例（情報提供③）を参考に、市民参加が盛り上がっている札幌のイメージをワークショップ①で出した意見である、「情報」「機会や場」「参加のメリット」の三点から具体的に考えた。

意見交換は模造紙を用いて行った。

#### 意見交換のポイント

- 市民参加が盛んになっている札幌のイメージを具体的に考えてみます。
- 市民参加を盛んにするためのアイデアと、そのアイデアが実現し、盛り上がっていくとどうなるかを考えてみましょう。

### (3) ワークショップの結果

#### 1) Aグループの意見のまとめ

##### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット</li> <li>LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報さっぽろを見る程度の経験だった</li> <li>市民自治のインスタを見たことがある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そもそも知らない、やっていることも初めて知った</li> <li>機会や場がないと知らないままだ</li> <li>地域のまちづくりをすすめるためにコーディネート機能があるといい</li> <li>市民参加をもっと PR した方がいい (防災について)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会</li> <li>審議会・委員会</li> <li>ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティが小さい規模だと参加しやすくなる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動</li> <li>NPO の活動</li> <li>ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動に参加のイメージがある</li> <li>ゴミステーションが汚いところがあって、そこをきれいにするために話し合いが必要</li> <li>子供向けの餅つき大会に参加したぐらいのイメージ</li> <li>小中学生のワークショップと一緒に特典があるといい</li> <li>文房具やカードなどももらえるといい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さぽーとほっと基金</li> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	



●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 2枚
- ・LINE 公式などの SNS 1枚
- ・市のホームページ(図書館) 1枚
- ・アンケート0枚
- ・パブリックコメント0枚
- ・住民説明会0枚
- ・審議会・委員会0枚
- ・ワークショップ 1枚
- ・町内会活動 3枚
- ・NPO の活動0枚
- ・ボランティア活動 1枚
- ・さぼーとほっと基金0枚
- ・クラウドファンディング0枚
- ・ふるさと納税0枚

ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

●情報

<市民参加を高める手法>

- ・オープンソースの意見交換の場があると双方向に議論できる
- ・インスタグラムといった SNS での発信を行う
- ・台湾の事例のように仕組みをつくり、Youtube で流す
- ・テレビでも情報を流してほしい

<盛んになるとどうなる>

- ・オープンチャット、オープンソース型だと若い世代がみやすい
- ・ご高齢の方にも情報が伝わる
- ・SNS の登録者が増える
- ・市ホームページの閲覧数が増える
- ・視聴者数(Youtube、テレビなど)が増える
- ・いいね数 コメントが公開される、見ることができる

## ●場や機会

### <市民参加を高める手法>

- ・ワークショップの機会をたくさんつくる
- ・学校教育と絡め、小学生のうちから参加できるワークショップを増やす
- ・オンライン町内会をつくと機会が増える
- ・楽しく参加できるような活動にしていく
- ・ゴミ拾いなどを区対抗で行う。ゲーム性を持たせる
- ・実証実験のようにしていく(個人、法人が連携または個別に)

### <盛んになるとどうなる>

- ・札幌の子どもたちは意見を言いやすい人になる
- ・自分の考えをもって話せるようになる
- ・新しい仕組みできると、他自治体へ輸出できる
- ・若い世代の町内会への参加が増える
- ・地域のコミュニティに入りやすくなる
- ・公共空間の規制改革になる
  - ・実証実験の回数(参加できるもの)が増える

## ●メリット

### <市民参加を高める手法>

- ・ポイントがあると参加しやすくなる
- ・ポイントがたまっているという事実が就活につかえる
- ・市の除雪や地域の福祉除雪を手伝うとポイント付与がある
- ・スマホでポイントが見られると分かりやすい
- ・ポイントはマイルのように商品券などに引き換えできると良い
- ・ポイントの財源は企業スポンサーについてもらうことを考えられる

### <盛んになるとどうなる>

- ・若い世代(大学生)の参加が高まる
- ・参加の記録が見ることができる
- ・文房具などの配布があると参加のきっかけになる
  - ・財政負担も減る
  - ・健康づくりにもなる
- ・除雪支援をきっかけに高齢の人と若い人のコミュニケーション機会になる
  - ・スマホアプリの登録数が増える

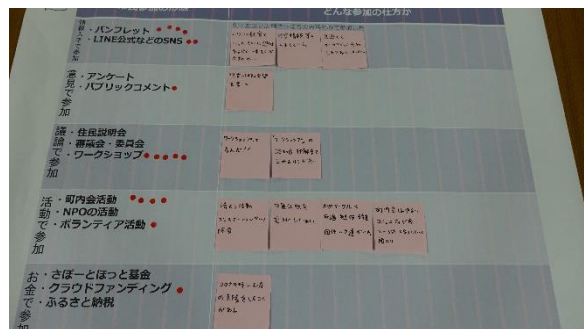




## 2) Bグループの意見のまとめ

### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット</li> <li>LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン教室といったものに興味はあるが、一步踏み出すのが大変               <ul style="list-style-type: none"> <li>除雪情報等を入手している</li> </ul> </li> <li>見逃してボランティア参加をし損ねてしまったことがある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪に対する要望を書いたことがある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会</li> <li>審議会・委員会</li> <li>ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ワークショップ」の認知度・理解度を上げたほうが良い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動</li> <li>NPO の活動</li> <li>ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動、ゴミステーション管理、除雪に参加している</li> <li>回覧板を電子化してほしい</li> <li>大学のサークルで毎週勉強支援していた。</li> <li>団体に友達がいたので参加した</li> <li>町内会はゆるいコミュニティが良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さぽーとほっと基金</li> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの時にお店の支援をしたことがある</li> </ul>



## ●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 4 枚
- ・LINE 公式などの SNS 2 枚
- ・アンケート 0 枚
- ・パブリックコメント 1 枚
- ・住民説明会 0 枚
- ・審議会・委員会 0 枚
- ・ワークショップ 5 枚
- ・町内会活動 4 枚
- ・NPO の活動 0 枚
- ・ボランティア活動 1 枚
- ・さぼーとほっと基金 0 枚
- ・クラウドファンディング 1 枚
- ・ふるさと納税 0 枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・札幌市の情報が一個にまとまったアプリがあるとよい
- ・SNS はまだ周知が浸透していないと感じる
- ・文字よりは写真が見たいため、インスタが見やすいと感じる
- ・若い人は SNS だが、高齢になると紙の方が楽である。使い分けが大事
- ・SNS の使い方を教えてくれる人がいると良い

#### <盛んになるとどうなる>

- ・アプリのダウンロード数が増える
- ・市民自治、社会課題が札幌市民の共通の話題になっている
- ・たくさんの意見が出ることで、まちづくりがやりやすく、活発になる

### ●場や機会

#### <市民参加を高める手法>

- ・仕方ないことだが、現状は日時が合わないことが多い
- ・友人などと気軽に参加できると良いと感じる

#### <盛んになるとどうなる>

- ・色んな人と話せる機会が増えると考えが柔軟になる
- ・使いやすい場ができて、いろんなイベントが開催されている
- ・オンライン参加が当たり前になっており、札幌市民が全員デジタルに強くなっている

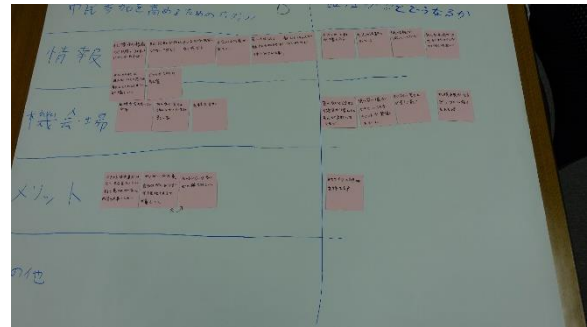
## ●メリット

### <市民参加を高める手法>

- ・メリットは大事だが、そこをメインにすると意味がない。意見の内容も大事にしたい
- ・やりがいがあり、自分のがんばりが可視化されると嬉しいと感じる
- ・フィードバック無しだと、参加した結果どうなったのだろうかと感じる

### <盛んになるとどうなる>

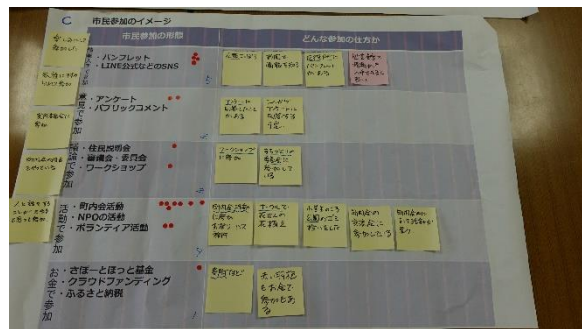
- ・まちづくりに興味を持てる



### 3) Cグループの意見のまとめ

#### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット</li> <li>・LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報さっぽろ</li> <li>・新聞で情報を知る</li> <li>・区役所にパンフレットがある</li> <li>・図書館で情報が入手できると良い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート</li> <li>・パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートに回答したことがある</li> <li>・これからアンケートに回答する予定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民説明会</li> <li>・審議会・委員会</li> <li>・ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップに参加</li> <li>・まちづくりの委員会に参加している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動</li> <li>・NPOの活動</li> <li>・ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動に参加（お祭り、バス旅行）</li> <li>・サークルで花壇の花植え</li> <li>・小学生のころ公園のゴミ拾いをした</li> <li>・町内会の交流会に参加している</li> <li>・町内会によって活動が違う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さぽーとほっと基金</li> <li>・クラウドファンディング</li> <li>・ふるさと納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付など</li> <li>・赤い羽根もお金で参加もある</li> </ul>



●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 5枚
- ・LINE 公式などの SNS 0枚
- ・アンケート 2枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 1枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 1枚
- ・町内会活動 7枚
- ・NPO の活動 0枚
- ・ボランティア活動 2枚
- ・さぼーとほっと基金 1枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 0枚

ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

●情報

<市民参加を高める手法>

- ・図書館で入手できると良い
- ・スーパーや駅の掲示板など多くの人が利用する場所で入手できると良い
- ・バス停や病院など待ち時間のある場所にもあると良い
- ・ゴミステーションが情報ステーションになると良い
- ・SNS は情報を取りに行くときに活用する
- ・必要とされるボランティアの情報が入手できると良い

<盛んになるとどうなる>

## ●場や機会

### <市民参加を高める手法>

- ・身近なところで参加できる仕組み、システムがあると良い
- ・市民参加情報ステーションの設置
- ・ロコミが重要である
- ・身近なところでコミュニケーションが取れる場が基本になるのではないかと感じる
- ・ボランティアしたい人と求めている地域とのマッチングの仕組みを作る
- ・子どもに参加してもらうために町内会が必要である
- ・若い世代が参加して町内会運営をする
- ・若い世代による町内会を組織する

### <盛んになるとどうなる>

- ・町内会の若い世代の参加、役員が増える
- ・ボランティアをしたい人と地域のマッチング数が増える
- ・市民参加ステーションが各地域にできる
- ・まちづくり活動に参加する子供が増える

## ●メリット

### <市民参加を高める手法>

- ・有償ボランティアも必要ではないかと考える
- ・まちづくりポイントなどがあると若い世代も参加してくれると考える
- ・人の話を聞く機会があるだけでもメリットになる

### <盛んになるとどうなる>

- ・ボランティアビジネスの人が増える
- ・スマホでボランティアのマッチング
  - ・市民参加ビジネスで起業する人が増える

## ●その他

### <市民参加を高める手法>

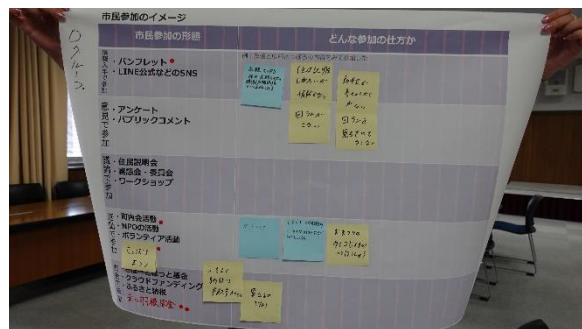
- ・再雇用の高齢者が増えており、町内会に参加する機会が減っている
- ・ボランティアに関心を持ってもらうことが必要である
- ・子どもの時からまちづくり、市民参加をしてもらう



#### 4) Dグループの意見のまとめ

##### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット</li> <li>・LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報さっぽろ、毎月広報クイズの感想（広報誌）をメール送信している</li> <li>・住民説明会に参加したいが情報がない、回覧が来ない</li> <li>・新年会の参加資格がない、回覧を見る気にもならない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート</li> <li>・パブリックコメント</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民説明会</li> <li>・審議会・委員会</li> <li>・ワークショップ</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動</li> <li>・NPO の活動</li> <li>・ボランティア活動</li> <li>・さっぽろまつり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデニング</li> <li>・おまつり、6月札幌まつりで笛や太鼓の部分で太鼓をしている</li> <li>・おまつりの太鼓（活動）⇒報酬</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さぽーとほっと基金</li> <li>・クラウドファンディング</li> <li>・ふるさと納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税は市政参加とは異なるのでは？</li> </ul>



## ●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 1枚
- ・LINE 公式などの SNS 0枚
- ・アンケート 0枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 0枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 0枚
- ・町内会活動 1枚
- ・NPO の活動 0枚
- ・ボランティア活動 0枚
- ・さっぽろまつり 1枚
- ・さぼーとほっと基金 0枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 0枚
- ・赤い羽根募金 2枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・チラシのポスティングを町内会にやってもらう
- ・テレビで流す
- ・ポスターの掲示
- ・数日間の宣伝カー

#### <盛んになるとどうなる>

- ・おまつり、子ども食堂の参加者が増える
- ・ボランティア活動の参加者や主催者が増える

### ●場や機会

#### <市民参加を高める手法>

- ・食事会を開催する
- ・子どものために、大人が住んでいて楽しい将来のまちづくりをする
- ・小中学校、幼稚園を活用し、子どもにも参加してもらう
- ・親子懇談
- ・子ども、大人だけのワークショップ



### <盛んになるとどうなる>

- ・人間関係が良くなる、つながりができることで一人任せにしない社会になる。
  - ・子どもが参加することで、親が参加し、みんなが参加するようになる。

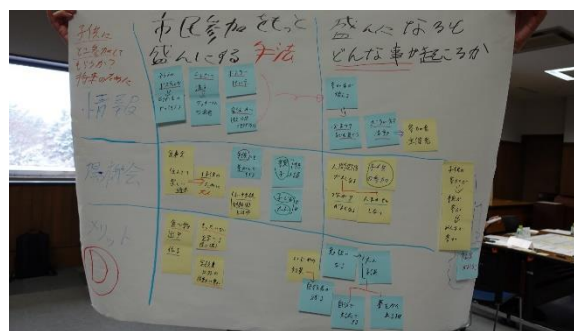
### ●メリット

#### <市民参加を高める手法>

- ・子ども向けに食べ物を出すことで、もったいないを学ばせたり、メリットを学びにつなげる。
- ・学校以外の活動に参加する
- ・いじめの対策ができるようになり、自殺者が減る

### <盛んになるとどうなる>

- ・大人、子どもが学習できるようになり、自分で考えることができる。
- ・夢を語れる子どもが増える。



5) Eグループの意見のまとめ

ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方か
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット</li> <li>LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Kitara のパンフレット</li> <li>広報さっぽろはポストにあるので見ている（配布したことがある/している友人を見ている）</li> <li>Twitter の RT で市の災害情報を見たことがある</li> <li>ポストにあったハザードマップやお役立ち冊子を保存している</li> <li>LINE 公式サイトがあるのを知らなかった</li> <li>クマ情報、ゴミ捨てについては市の HP で見る</li> <li>色々なサービスがあるのに市民が活用できていない。広報不足である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報が入ってこない</li> <li>働いていると時間が合わない</li> <li>広報での伝え方が不十分かもしれない。</li> <li>市にサイトを通してクマに対するクレームを入れたことがある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会</li> <li>審議会・委員会</li> <li>ワークショップ</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動</li> <li>NPO の活動</li> <li>ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌クラブに入会している</li> <li>総務部長として班に配布した経験がある</li> <li>中島公園駅にいる外国人の方にホテルの場所など案内したことがある。英語で伝えたいがうまく言えないこともあり、もどかしい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さぽーとほっと基金</li> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>返礼品のためにほかの都市へふるさと納税している</li> <li>クラファン、市のためというより「人」のためにしていることであり、市民参加とはちがうのではと感じる。</li> </ul>



## ●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 2枚
- ・LINE 公式などの SNS 1枚
- ・アンケート 0枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 0枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 0枚
- ・町内会活動 1枚
- ・NPO の活動 1枚
- ・ボランティア活動 0枚
- ・まちの中を歩く 1枚
- ・さぼーとほっと基金 0枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 0枚
- ・納税 0枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・区役所単位でもサークルなど身近な情報を発信してほしい
- ・その人の生活や思考にあったものを選べるように、参加できる場所や仕組みを紹介する
- ・郷土資料館など歴史に関わるものを周知する
- ・「自分で情報を見に行く」人が少ないと思うと SNS で「流れてくる」広報が良い
- ・地下鉄の中に情報があると見やすい
- ・市電の中でも広告すると良い
- ・会場参加はハードルが高い。ネット上で意見を書き込めるとより若者も参加してくれるのではないかと感じる。
- ・テレワークで外に行くことが少ない人のためにもネットで発信してくれるといい
- ・自分がどこの町内会にいるか、わかっていない。町内会の情報が届くといい

#### <盛んになるとどうなる>

- ・「市民参加」へのハードルが低くなる
- ・札幌市の自然をもっと広報することで、歩いてみよう、知ってみようとなり、健康増進にもつながる
- ・札幌市の財産をもっと広報することで、市民が興味を持ち、参加することが増える

## ●場や機会

### <市民参加を高める手法>

- ・中島公園の天文台でイベントを行う
- ・周りの方ではなく、まったく新しい方と出会える場があった方が参加しやすい人も
- ・「出会いの場」があると参加しやすい。若者それぞれの立場からも行きやすい
- ・色々な世代、生活スタイルに合った活動が用意されていると参加しやすい
- ・「若者が」参加しやすい方法にしたい
- ・週1でも子ども食堂をお手伝いしたいと考えている。簡単なことでもできる場があると良い

### <盛んになるとどうなる>

- ・人が集まるところで活動できると、周辺地域のいいところも知れる
  - ・潜在的に「手伝いたい」「こんな風に過ごしたい」と思っている方のニーズをくみ取れる
  - ・忙しい方のちょっとしたお手伝いができる、老後の生活や社会人や子育て世代の方、両方にメリットある
  - ・ご近所づきあいを(ちょっぴりぐらい)深めることで、防犯にもつながる。子育ても安心できる
  - ・立場のちがう若者同士の交流や活動につながる。
  - ・やりたいことがいっぱいあって、選べる、できる結果、市民参加になっていたとなるのが理想である

## ●メリット

### <市民参加を高める手法>

- ・ポイント制もいいが、どこで使えるかが大切である
- ・市民ならではの特典がもっと伝わると参加しやすい
- ・保健所だと安くアスレチックを使える。〇〇だと××が安くなるので参加してくださいと呼びかける
- ・色々な活動が制限されている今だからこそ、楽しんでできるものが多いといい
- ・「市民」というくくりでなく、それぞれ「個人」の楽しみのためになるとハードルが下がるか考える。

### <盛んになるとどうなる>

- ・自分の生活に合ったメリットがあると参加のハードルが下がるかもしれないと考える。

## まとめ

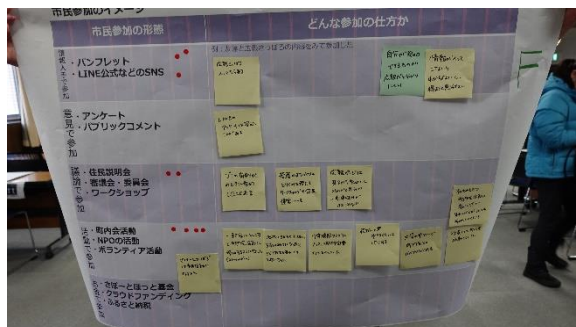
- 情報は「流れてくる」ものだと見やすい
- 札幌市のすでにある場、制度などをもっと周知する



## 6) Fグループの意見のまとめ

### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット</li> <li>LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報さっぽろ、入っていたら見る</li> <li>自分が参加できるものが広報だと分かりにくい</li> <li>情報が入ってこないと分からないし、得ようと思わない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LINE のアンケートは答えたことがある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会</li> <li>審議会・委員会</li> <li>ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミの有料化の時に参加したことがある</li> <li>若者のまちづくりの取り組みを考えるワークショップを企画・運営している</li> <li>広報のページは見ており、参加してみようかと思うが、申し込みへ一歩踏み込めないでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動</li> <li>NPO の活動</li> <li>ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“さぽーとさっぽろ” は市民活動になるのか</li> <li>一軒家に引っ越すとスノーキャンドルづくりといった町内会活動に参加するようになった</li> <li>地域の子どもとふれあい、子育ての助けになれたり、子どもたちと会話できるようになった <ul style="list-style-type: none"> <li>少年消防クラブに入って、消火栓除雪などをやっていた</li> <li>花壇の水やりくらいはしたりする</li> <li>大学のサークルで町内会とのかかわりがある</li> </ul> </li> <li>子どものときは町内会活動に参加していたが、年齢が上がるにつれ、参加しにくくなった <ul style="list-style-type: none"> <li>役員として町内会活動していた</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さぽーとほっと基金</li> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	



## ●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 2枚
- ・LINE 公式などの SNS 1枚
- ・アンケート 0枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 2枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 0枚
- ・町内会活動 4枚
- ・NPO の活動 0枚
- ・ボランティア活動 0枚
- ・さぼーとほっと基金 0枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 0枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・知りたい情報が入る、気軽に答えられる
- ・ワークショップの開催情報を知らなかった。スマホなどでも知れるようにしてほしい
- ・電車の待ち時間などに QR コードで気軽に Yes・No でアンケートに答えられるようになるとうい。
- ・町内会が入ると逆に情報が伝わらない時もある。市民に直接届く方法を考えるべきである。
- ・チカホや TV などでもっと広報するとよい
- ・好みにあった情報が入ってくるようになるとうい
- ・参加の情報があれば参加する人も増えるのではないか

#### <盛んになるとどうなる>

- ・若い世代の参加が増える
- ・世代間の交流が生まれると良いまちづくりにつながる
- ・スマホやアプリで情報を得られる
- ・市のほしい情報が入ってくるようになる
- ・スマホだとコミュニケーションが気軽にとれる

## ●場や機会

### <市民参加を高める手法>

- ・定期的な意見交換の場、若い世代が友人同士で参加しやすくする。
- ・いつも話せるような場が定期的であり、各区に話せる場があるとよい
- ・若い世代が町内会を知る機会、若者だけの取り組みがあるとよい
- ・町内会は高齢の方が多くと若者が入りにくい。参加するためには参加のきっかけが必要である
- ・大学の時から子どもたちと触れ合える機会があるとよい

### <盛んになるとどうなる>

- ・定期的にふらっと来て話せる、友人と話せる場がある
  - ・気軽に話せるような場が定期的に分かれるとよい
  - ・友人同士で参加できると気軽にまちづくりについて話せる
  - ・地域食堂のような食べられる場は集まりやすい。話しやすく、小さな悩みも言いやすい。

## ●メリット

### <市民参加を高める手法>

- ・ボランティアしたら、ポイントもらえる。公共施設のサービスを受けられると良い
- ・アプリでポイント貯まるようにして、情報を得られるようにする。
- ・子どもから参加していたら、ランク付けする
- ・ボランティアに対する対価は必要である

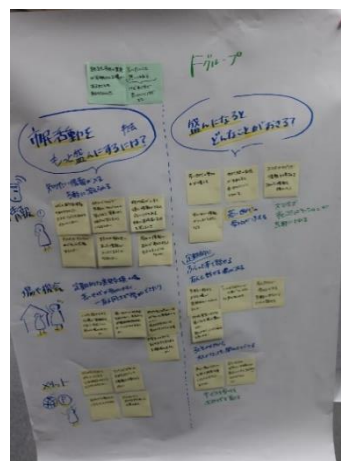
### <盛んになるとどうなる>

- ・子どもの時から大人になっても関わり続ける
- ・高齢者がポイントを使って除雪作業してもらえなどあると良い
- ・ボランティアのお兄さんお姉さんが身近にいと、子どもたちに受け継がれていく
- ・サービスを受ける次世代を育てる

## ●その他

そもそも市民の意見が反映される場があることも知らなかった

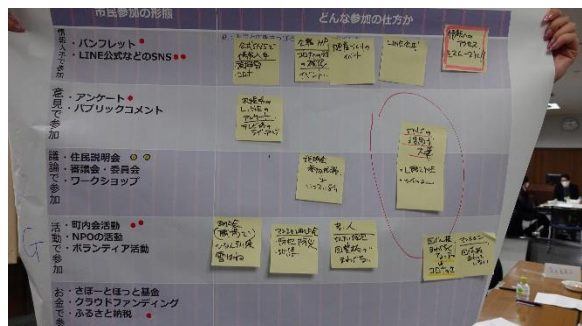
言いたいこと、思いはあるが、わざわざ言いに行くほどでもないと考えてしまう



## 7) Gグループの意見のまとめ

### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方が
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレット</li> <li>LINE 公式などの SNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式 SNS で除排雪やコロナについて情報入手</li> <li>広報、ホームページでコロナへの対策の確認、イベント情報を入手</li> <li>健康づくりのイベント</li> <li>LINE 公式</li> <li>情報へのアクセスをスムーズに</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌市の LINE でアンケートをとってはどうか</li> <li>テレビ塔のライトアップ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民説明会</li> <li>審議会・委員会</li> <li>ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会参加依頼があったがいない</li> <li>LINE Twitter SNS の活用が大事</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会活動</li> <li>NPO の活動</li> <li>ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会(職場で)避難経路、雪はね</li> <li>マンション町内会 防犯、防災訓練</li> <li>若い人 賃貸住宅 回覧板が回らない</li> <li>マンション 回覧板まわっていない</li> <li>コロナのせいで回覧板がまわらなくなった</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>さぽーとほっと基金</li> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	





## ●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 1枚
- ・LINE 公式などの SNS 2枚
- ・アンケート 1枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 2枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 0枚
- ・町内会活動 2枚
- ・NPO の活動 0枚
- ・ボランティア活動 0枚
- ・さぼーとほっと基金 0枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 1枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・SNS の活用
- ・スーパーなどでレシートの裏に情報やアンケートを記載する
- ・町内会情報のチラシを配布、地下鉄とかに置く
- ・回覧板、掲示板の内容が不必要故に軽視しがちになるので目次、項目、テーマを示す
- ・QR コードを使ってまちセン単位で情報の啓発活動をする

#### <盛んになるとどうなる>

- ・市民の情報に触れる機会が増える
- ・市民が自分の意見を持つ
- ・安心できるようになり、生活の質が良くなる
- ・意見が市政にどのように反映されたかのフィードバックが大事

### ●場や機会

#### <市民参加を高める手法>

- ・若者アドバイザーを認定する
- ・町内会は意義があり、大事なものである。
- ・学生の勉強の場やコワーキングスペースを増やす
- ・まちづくりセンターをもっと活用する
- ・町内会の年間行事や活動の共有

<盛んになるとどうなる>

- ・高齢者の生涯健康増進
- ・子どもも参加できるようなる
- ・若者職員の活躍

●メリット

<市民参加を高める手法>

- ・ゴミ袋のプレゼントと、情報提供の方法を伝える
- ・アンケートを取って景品を渡す
- ・スーパーで買い物のときにアンケートを取る
- ・広報のアンケートをスーパーの目安箱を使う
- ・若者やファミリー世代を引き付け、メディア出演をしてもらう
- ・町内会活動の「表彰」をする

<盛んになるとどうなる>

- ・参加者が増える
- ・市政に興味を持ってもらえる



## 8) Hグループの意見のまとめ

### ワークショップ1：市民参加のイメージの共有の主な意見

市民参加の形態	どんな参加の仕方か
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット</li> <li>・LINE 公式などの SNS</li> <li>・町内会の回覧板</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報さっぽろを見ている（市の情報を得ている）。</li> <li>・町内会の回覧を見る。</li> <li>・若い人は広報さっぽろのことは、知ってはいるけど見ない人が多い。</li> <li>・でも、ゴミ収集などの必要な情報や自分が関心のある情報があれば見ると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート</li> <li>・パブリックコメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市からアンケート調査の封書が来て回答した（ヤングケアラーのアンケート）。</li> <li>・学校の授業で、アンケートで答える機会があった。</li> <li>・アンケートをする場合、紙媒体よりも、iPad などの方がやりやすい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民説明会</li> <li>・審議会・委員会</li> <li>・ワークショップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な内容だったので、藻岩山のロープウェイの整備に関するワークショップに参加した。</li> <li>・自分の関心のあるテーマだと参加すると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動</li> <li>・NPO の活動</li> <li>・ボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会のイベント、BBQ、いちご狩りなどに参加した。</li> <li>・子どもがいたため、子どものつながりから参加した。</li> <li>・餅つきや七夕、ラジオ体操、清掃活動などに参加したことがある。</li> <li>・お祭りでよさこいを披露した。</li> <li>・子どもの引率として町内会活動に参加した。</li> <li>・仲間と一緒に老人ホームで全体のボランティアを行った。</li> <li>・小学校の取り組みとして交通安全運動に参加した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さぽーとほっと基金</li> <li>・クラウドファンディング</li> <li>・ふるさと納税</li> <li>・飲食店のクーポン寄付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を返礼品がもらえるのでやってみた。</li> <li>・市内の飲食店の応援クーポンを買って寄付活動に参加したことがある。</li> <li>・寄付などはお得感があるとよい。</li> </ul>



●貼られたシールの枚数

- ・パンフレット 2枚
- ・LINE公式などのSNS 0枚
- ・町内会の回覧板 1枚
- ・アンケート 1枚
- ・パブリックコメント 0枚
- ・住民説明会 0枚
- ・審議会・委員会 0枚
- ・ワークショップ 1枚
- ・町内会活動 4枚
- ・NPOの活動 0枚
- ・ボランティア活動 2枚
- ・さぼーとほっと基金 0枚
- ・クラウドファンディング 0枚
- ・ふるさと納税 1枚
  - ・飲食店のクーポン寄付 1枚

## ワークショップ2：市民参加を盛んにするためのアイデアの主な意見

### ●情報

#### <市民参加を高める手法>

- ・市民に自動的に届く情報だと情報を得やすいので、プッシュ型の情報発信が必要である。その際、テーマなどのカテゴリーに分けて発信するとよいと思う。
- ・若い世代向けには、フェイスブックやラインは登録が負担となるので、インスタや TikTok などの SNS を活用し、動画で見ってもらうのか効果的である
- ・若い世代には、広報さつぽろもインスタや TikTok で発信するとよいのではないかな。
- ・また、TikTok のコメントで意見を収集するなどよいのではないかな。
- ・テレビで情報を流す。
- ・新聞を使って QR コードで調べられるようにする。
- ・情報発信の内容としては、世代に応じた情報の内容が良い。
- ・若い世代に対しては、まずは市の取り組みを積極的に発信して、知ってもらうことが必要である。
- ・習い事やイベント事の参加者募集など興味を持ってもらえる情報発信を行う。

#### <盛んになるとどうなる>

- ・市民の基礎的な知識や情報が増える。
- ・SNS を活用することで若い世代の見る人数が増え、それにより、若い世代じゃない人も関心が高まる。
- ・市の取組に関する情報が増えるので、パンフレットやチラシを持っていく人数が増える。
- ・それにより、市からの情報発信の質や量も高まっていく。
- ・そうすると、さらに市民の知識や情報の質や量が高まっていく。
- ・情報が増えることで、身近な問題に関する解決につながる

### ●場や機会

#### <参加を高める手法>

- ・若い世代には、学校や授業で開催する。
- ・街頭インタビューなどで、関心が無い人やそもそも知らない人の意見を聞ける機会があると良い。
- ・市民が自由に意見を言えたり、聞いたりできる機会があると良い。
- ・Web 上で手軽に参加できると良い。
- ・市長や市職員に直接意見を言える機会があると良い。
- ・今日のワークショップのような機会がたくさんあれば良い。
- ・世代やカテゴリーで分けたワークショップがあると良い。
- ・堅苦しくない、気軽な雰囲気の機会があると良い(お菓子付きなど)。
- ・有名人がかかっていると、参加の動機付けになる。
- ・仲間や一緒に参加する人がいると良い。

### <盛んになるとどうなる>

- ・関心のレベルが高まる→市民のレベルが上がる→市民が気付く問題の質やレベルが高まる。
- ・ワークショップでは議論を通して知見が高まる、深まる
- ・意見が言いやすくなることで、より参加のハードルが下がる。
- ・ハードルが下がることで、意欲やモチベーションが上がる。
- ・多世代で意見交換できる機会が増える。
- ・参加の機会が増えると、市民それぞれの行動範囲が広がる。

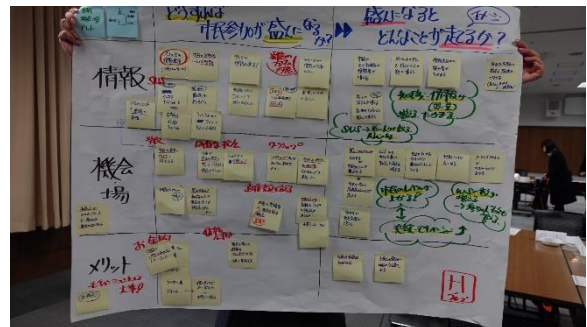
### ●メリット

#### <参加を高める手法>

- ・メリットは、モチベーションとして大事である。お得感があると良い。
- ・謝礼金などの報酬金があると参加の動機づけになる。
- ・クオカードやクーポン券、ポイント付与など、お金として使えるものが良い。
- ・市民参加により意見を聞いた結果をしっかりと市民にフィードバックして報告することが重要である。

### <盛んになるとどうなる>

- ・市民参加の意欲が高まる。
- ・お金じゃ買えない市民の効果がある。



## 第4章 参加者アンケート

### 1. アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、次年度以降のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象 : 「市民自治を考える市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法 : ワorkshop当日（令和5年2月25日）に配布・回収
- ・回収数 : 34名

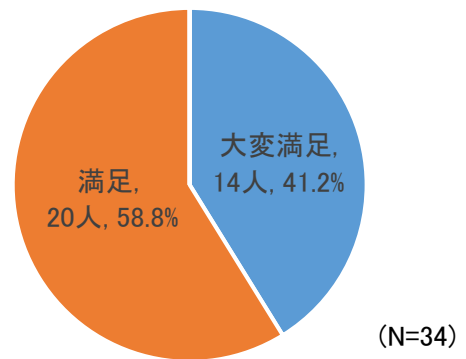
### 2. アンケートの質問項目と結果

#### 【質問1】「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加した感想（ひとつに〇）

「大変満足」が約4割、「満足」が約6割という結果となった。

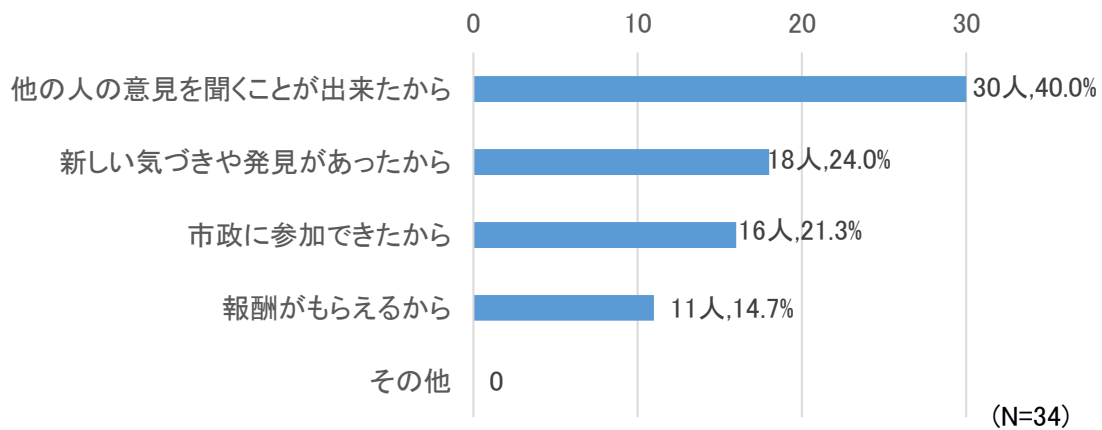
選択肢	回答数	割合
大変満足	14	41.2%
満足	20	58.8%
不満足	0	0.0%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%



(2) (1) で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が 30 名と最も多かった。次いで「新しい気づきがあったから」との回答が 18 名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	30	40.0%
新しい気づきや発見があったから	18	24.0%
市政に参加できたから	16	21.3%
報酬がもらえるから	11	14.7%
その他	0	0.0%
合計	24	100.0%



(3) (1) で「③不満足」「④大変不満足」と回答した理由（複数回答）

※該当者なし

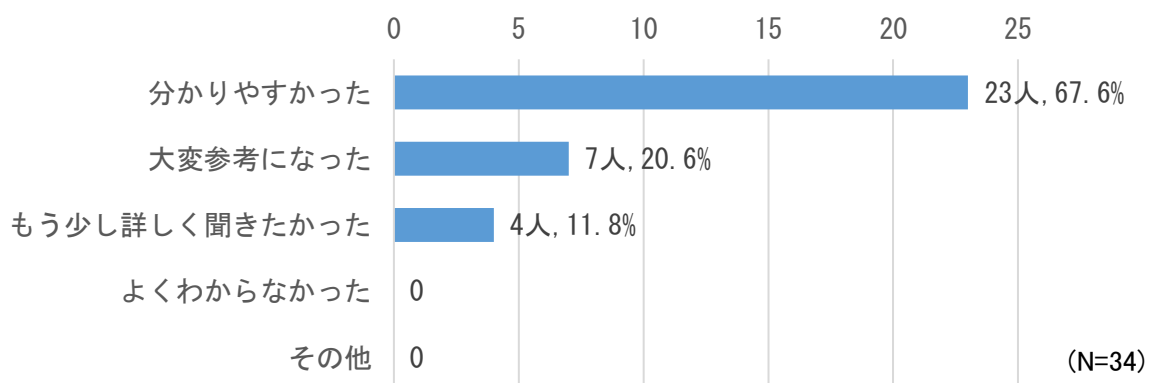


【質問 2】 情報提供について

(1) 市民自治に関する基礎情報や、先進事例の紹介などの情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 23 名、「大変参考になった」が次いで 7 名、「もう少し詳しく聞きたかった」が 4 名であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	23	67.6%
大変参考になった	7	20.6%
もう少し詳しく聞きたかった	4	11.8%
よくわからなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%



(2) (1) で「よくわからなかった」と回答した理由（複数回答）

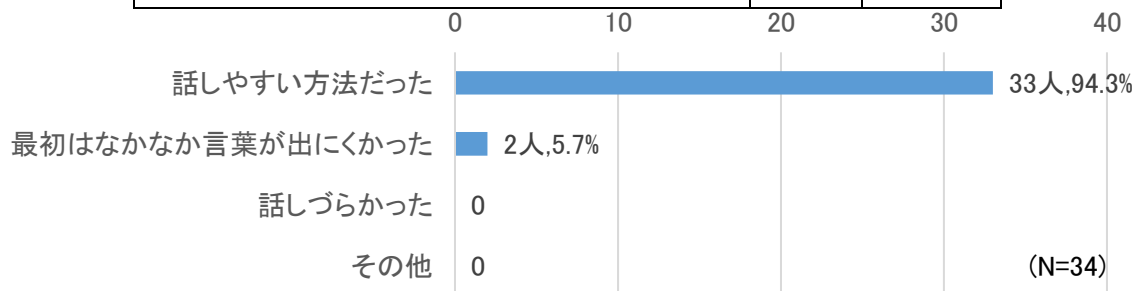
※該当者なし

### 【質問3】話し合いについて

#### (1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は9割以上であった。

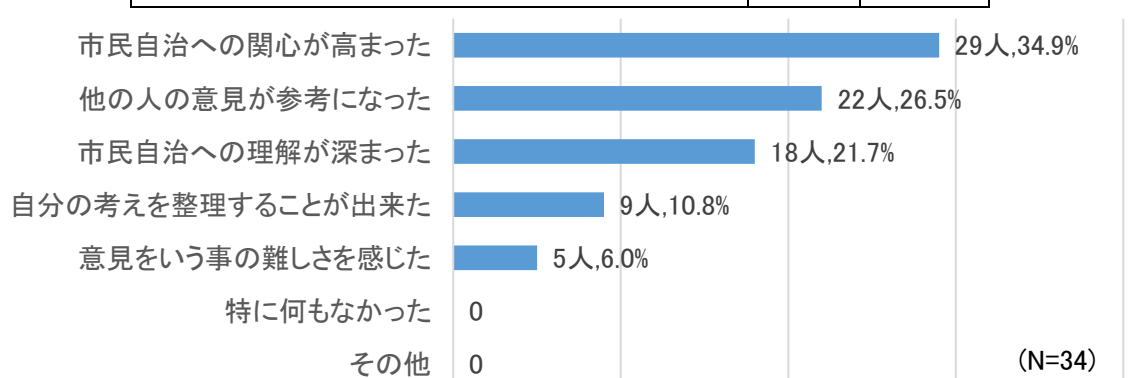
選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	33	94.3%
最初はなかなか言葉が出にくかった	2	5.7%
話しづらかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%



#### 【質問4】参加して得たものについて（複数回答）

「市民自治への関心が高まった」と回答した人は29名、「他の人の意見が参考になった」と回答した人は22名であった。

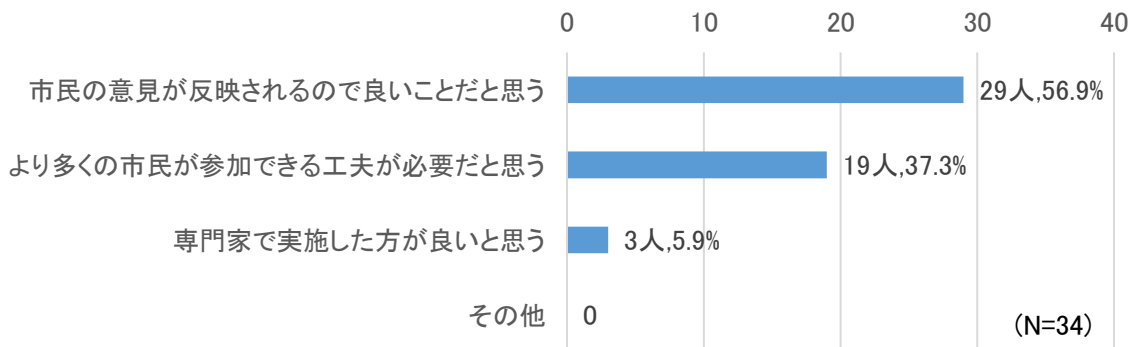
選択肢	回答数	割合
市民自治への関心が高まった	29	34.9%
他の人の意見が参考になった	22	26.5%
市民自治への理解が深まった	18	21.7%
自分の考えを整理することができた	9	10.8%
意見を言うことの難しさを感じた	5	6.0%
特に何もなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%



**【質問5】ワークショップの実施について（複数回答）**

「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」が最も多く 29 件、次いで「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が 19 件であった。

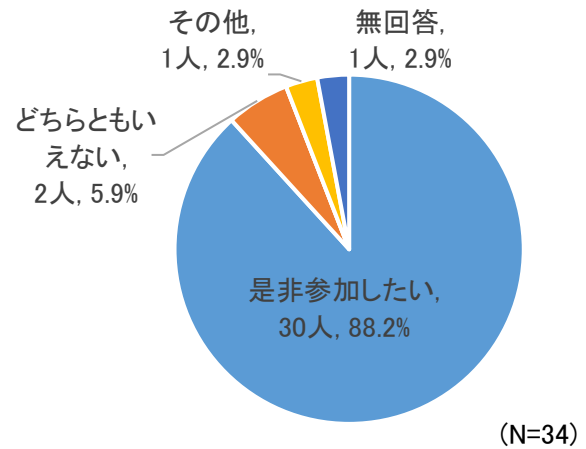
選択肢	回答数	割合
市民の意見が反映されるので良いことだと思う	29	56.9%
より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う	19	37.3%
専門家で実施した方が良いと思う	3	5.9%
その他	0	0.0%
合計	34	100.0%



**【質問6】 今後このような取組の参加について（ひとつに〇）**

今後もこのような取り組みに「ぜひ参加したい」と9割弱の参加者が回答した。

選択肢	回答数	割合
ぜひ参加したい	30	88.2%
どちらとも言えない	2	5.9%
参加したくない	0	0.0%
その他	1	2.9%
無回答	1	2.9%
合計	34	100.0%



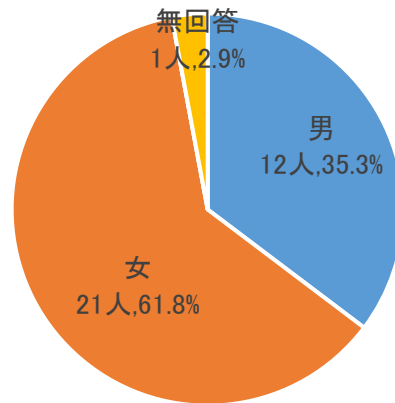
**※回答理由**

- ・色んな人と意見交流ができるから
- ・若い人の意見が大事だと思います
- ・自分自身ももっと参加する事によってよく理解できるようになって参加していけると思う
- ・参考になるので
- ・市政の現状を知るきっかけになる。他の人の考えを知ることが出来る。
- ・自分の考えが深まったから

【質問 7】 回答者さま自身について

(1) 性別

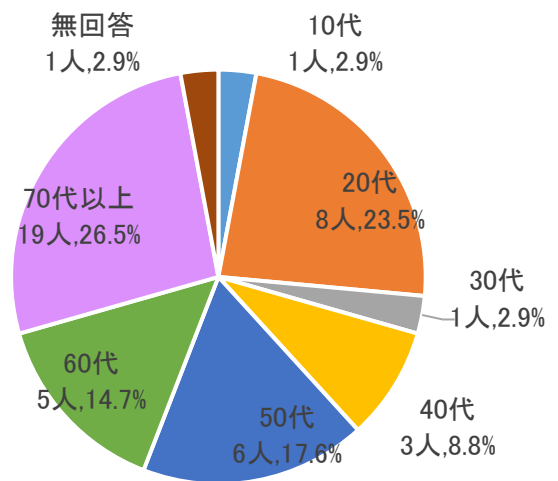
選択肢	回答数	割合
男	12	35.3%
女	21	61.8%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.9%
合計	34	100.0%



(N=34)

(2) 年代

選択肢	回答数	割合
10代	1	2.9%
20代	8	23.5%
30代	1	2.9%
40代	3	8.8%
50代	6	17.6%
60代	5	14.7%
70代以上	19	26.5%
無回答	1	2.9%
合計	34	100.0%



(N=34)

## 【質問8】自由回答

34名中16名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・堅苦しいものかとあやぶみながら参加しました。司会の方の助力がありなごやかで終 ありがとうございます
- ・市政のデータを示してほしい。人口のデータ、年齢区分、税収の伸び 固定資産税を下げしてほしい
- ・このようなワークショップ等、参加できる機会がもっとあれば良いと思う。
- ・10代から70代をまぜてという事でとてもよかったです。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ファシリテーターの方がいたおかげでとても話しやすかったです。
  
- ・色々な方のお話を聞いて良かったです。楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・楽しく学ぶことが出来ました。今後意識的に行動していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ネット環境向上させ、市民参加を促すという意見が大半だった。既存のシステム（札幌市）が活かし切れていないという指摘が良かったが、具体例を知りたかった。フィードバック（意見が反映されているかの検証）が大切との意見は貴重だった。フィードバックの方法を考えられればと思った。
- ・1つのテーマで他グループの意見を聞いたあとにもう一度話し合える時間があるともう少しきめの細かいものができるような気がします。
- ・色々な年代の方と交流できて良かったです。
- ・札幌市民として考える機会ができました
- ・参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・質問6で「ぜひ参加したい」と○したが耳が遠くなりはじめたので無理と思います。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今回のワークショップの意見がどのような形で伝わったのかフィードバックを頂けると嬉しいです。

### 3. 参加者アンケート結果のまとめ

#### (1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」で10割となった。その理由としては、「他の人の意見を聞く事ができたから」が30名(40.0%)と多く、次いで「新しい気づきがあったから」が18名(24.0%)であった。

また、話し合いの方法については「話しやすい方法だった」という回答が33名(94.3%)いた。一方で、2名(5.7%)の方が、「最初はなかなか言葉が出にくかった」という回答をしていた。

#### (2) 情報提供について

情報提供については、「大変参考になった」が7名(20.6%)、「わかりやすかった」が23名(67.6%)と多かったが、「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も4名(11.8%)あった。

#### (3) ワークショップについて

ワークショップを実施することについて、「市民の意見が反映されるので良いことだと思う」という回答が29名(56.9%)と多かった。一方「より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う」が19名(37.3%)あり、開催方法や頻度について工夫する余地があると考えられる。

今後の参加意向は30名(88.2%)と高かった。市の取組を知ることができたり、年代や性別が違う他の参加者の意見を聞くことで自身の知見が広がったことなどが高評価であった。

また、参加して得たものについても、「他の人の意見が参考になった」が22名(26.5%)と多く、一つのテーマについて世代を超え議論することにより、多様な意見に触れることができた参加者が多かったものと考えられる。また、「市民自治への理解が深まった」が29名(34.9%)、「市民自治への関心が高まった」が18名(21.7%)と多かったことから、このワークショップが、市民自治を考えるきっかけにつながったことが伺える。

## 5章 資料編

### 1 情報提供資料

令和4年度  
市民自治を考える市民ワークショップ

札幌の市民参加を高めるために

日時: 令和5年2月25日(土)13:00~16:00  
場所: 北海道立道民活動センター 大会議室(4階)  
主催: 札幌市 市民文化局 市民自治推進室

本日のプログラム

13:00	+	1. 開会、あいさつ
13:05	+	2. 情報提供1(10分)
13:15	+	3. 情報提供2(15分)
13:30	+	4. ワークショップ1(30分) 市民参加のイメージの共有
14:00	+	5. 休憩(10分)
14:10	+	6. 情報提供3(10分)
14:20	+	7. ワークショップ2(60分) 市民参加を盛んにするアイデア
15:20	+	8. 各グループから発表(25分)
15:45	+	9. まとめ(10分)
15:55	+	10. 閉会のあいさつ、アンケート記入

情報提供 1

令和4年度

SAPP-RO

市民自治を考える  
市民ワークショップ

札幌市市民文化局 市民自治推進室

自治基本条例キャラクター「じゅっちい」

まちづくり応援キャラクター「まっちい」

「市民参加」  
どうして必要？

SAPP-RO

背景①

ちほうぶんけん  
○地方分権

⇒それぞれの自治体が  
自治体の責任で考え、  
決めていくことが  
増えた

SAPP-RO



背景②

- 資源（お金・人など）は限りがある。
- 地域の課題は複雑多様化。



SAPP\_RO



より一層知恵を出し、  
工夫をしながら  
課題に向き合う必要がある!

SAPP\_RO

でも…  
すべての解決は、  
行政だけの力では難しい。

(例) 新型コロナウイルス感染症対策  
自然災害  
地域の見守り

SAPP\_RO



SAPP\_RO

### 市民と行政の力を合わせる

⇒様々な課題を、より円滑に解決  
していくことが可能に!



SAPP\_RO

## 自治基本条例?



SAPP\_RO

### ①自治基本条例とは?

⇒まちづくりの基本となる条例

- 平成19年4月1日施行
- 「市民が主役のまちづくり」を進めるための基本理念
- 札幌市の「まちづくりの最高規範」

SAPP\_RO

### ②まちづくり

#### 2条 定義

まちづくりとは、快適な生活環境や地域の安全安心など、市民みんなが暮らしやすいまちにしていけるための活動全般。

#### 5条 まちづくりの基本原則

まちづくりは、市民の参加により行われるものとする。

SAPP\_RO



まとめ

★まちづくりの主役は市民  
(基本理念)

★まちづくりは市民参加による  
(まちづくりの基本原則)

SAPP\_RO

～札幌市の情報共有の状況～

・プレスリリース (R1) 1,516件  
⇒ (R3) 2,919件 (55.3%増)

・SNS公式アカウント (R1) 35 ⇒ (R3) 46 (31.4%増)

媒体	R1	R3
LINE	2	8
Twitter	14	21
Instagram	6	11
Facebook	13	16

・出前講座 (R1) 765回  
⇒ (R3) 233回 (69.5%減)

SAPP\_RO

～札幌市の市民参加の状況～  
(市政への参加)

・パブリックコメント  
63件⇒92件(46.0%増)

	R1	R3
案件数	23	11
意見数	1,459	1,013
1案件あたりの 意見数	63	92

SAPP\_RO

～札幌市の市民参加の状況～  
(市政への参加)

・ワークショップ (R1) 64件 ⇒ (R3) 34件 (46.8%減)

・公募委員(市民委員)  
全1,800名中、80名程度  
(平均4.5%)



SAPP\_RO

～札幌市の市民参加の状況～  
(まちづくりへの参加)

・まちづくりセンターを中心とした  
まちづくり活動事例 (R1) 1,358件 ⇒ (R3) 1,405件 (3.4%増)



・企業との協働(まちづくりパートナー協定)  
(R1) 18件 ⇒ (R3) 19件 (5%増)



SAPP\_RO

～札幌市の市民参加の状況～  
(まちづくりへの参加)

・さぼーとほっと基金(H29～R3)

寄付額 年間平均7～8千万円

助成団体数 年間100件以上

SAPP\_RO

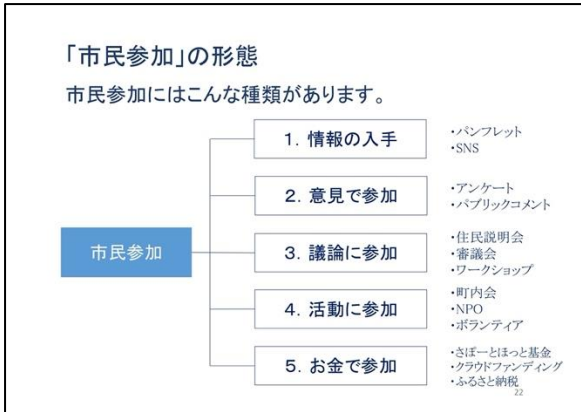
終



SAPP\_RO

情報提供 2

21



### 参加のステップ1～情報取得～

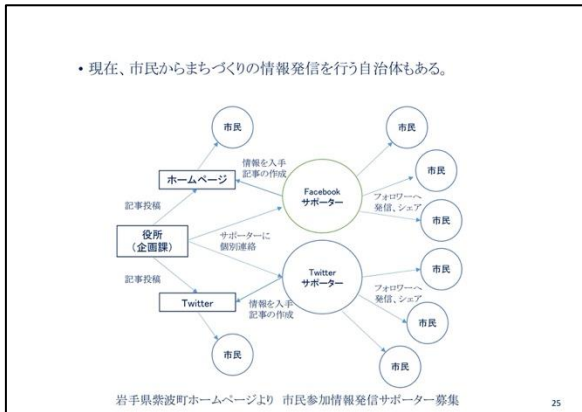
#### 1. 情報の入手

##### (1)パンフレットで情報入手

- ・広報さっぽろといったパンフレットから、まちづくりの情報を入手することが市民参加の第一歩となる。

##### (2) SNSで情報入手

- ・札幌市のLINE公式アカウントなどでまちづくりの情報を入手することも市民参加の第一歩になる。



### 2. 意見で参加

#### (1)アンケートに回答

- ・市政に関するアンケートに回答して参加する。

#### (2)パブリックコメントに意見する

- ・パブリックコメントは、札幌市の公表されている様々な計画に対して意見を言い、それに対して札幌市が回答するものです。

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(ビジョン編)パブリックコメント

### 3. 議論で参加

#### (1)住民説明会への参加

- ・札幌市などの行政がまちづくりに関して説明する会に参加する。

札幌市 丘珠空港の将来像(案)に関する住民説明会

#### (2)審議会・委員会での参加

- ・札幌市が主催する、審議会(行政機関が意思決定を行う際に意見を求める複数人の機関)や委員会(上位機関のために作業する機関)に市民委員として参加する。

札幌市まちづくり戦略ビジョン 審議会

(3) ワークショップへの参加



市民対話事業 2030冬季オリンピック・パラリンピックの招致を考えるワークショップ

30

1) 全市的テーマへのワークショップ

- 札幌市全体のまちづくりに関するテーマのワークショップに参加する。



札幌市 まちづくり戦略ビジョン策定に伴う市民ワークショップ

Zoomを使ったオンラインワークショップ

31

2) 地域レベルのワークショップ

- 各区や町内会レベルで実施されるワークショップに参加する。



町内会について考えるワークショップ

32

4. 活動に参加

(1) 町内会活動に参加する

- ごみステーションの管理・清掃活動へ参加する。



33

- 町内会での除排雪活動に協力・参加する。



パートナーシップ排雪

34

- 町内会での避難訓練へ参加し、災害時の助け合いをできるようにする。



35

- 町内会などの子ども向けイベントの開催をする。



36

(2) NPOなどの活動に参加する

- NPO法人や任意団体の活動を通してまちづくりに参加する。



拠点型のスタディーサポート「Kacotam」



札幌市北区 麻生の子ども食堂「りあん」



NPO法人「そだちの杜」桑園児童会館子育てサロン

37

(3) ボランティア活動に参加する



札幌市立高校による清掃活動



間伐ボランティア「札幌ウッドイーズ」



大学生によるまちづくりイベントの運営支援



観光ボランティアガイド

38

4) まちづくりのイベントに参加する



清田区 冬の実証実験 きよた灯りカフェ




39

5. お金でまちづくりに参加

(1) さぼーとほっと基金

- さぼーとほっと基金は、札幌市が皆さんからの寄付を募り、町内会・ボランティア団体・NPOなどのまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支える制度です。



区分	寄付総額 (円)	件数	助成額 (円)
合計	8,376,390,843	8,268	960,288,464
0円以下	858	38,480,444	136
0円以下	717	68,886,046	100
0円以下	463	783,392,933	131
0円以下	523	135,765,842	153
0円以下	387	76,742,089	139
0円以下	250	112,495,834	127
0円以下	239	67,669,076	126
0円以下	818	67,352,693	113
0円以下	366	66,930,332	100
0円以下	293	102,784,289	105
0円以下	288	104,443,223	102
0円以下	137	67,761,766	86
0円以下	153	64,533,652	102
0円以下	183	46,462,979	57
0円以下	112	35,848,128	24

札幌市ホームページより さぼーとほっと基金寄付金額と助成額

40

(2) クラウドファンディング



子育て中のママたちが 家庭から地域へ 地域から社会へ ソフトランディングしているよ  
子育て中のママたちがスタッフとなって 『地域社会と母親をつなぐ活動』をしています。

41

(3) ふるさと納税

- ふるさと納税は生まれた故郷や応援したい自治体に寄付ができる制度。  
・自分自身で寄付金の使い道を指定でき、地域の名産品などのお礼の品ももらえる仕組み。

札幌市では2020年には17,353件で約6億円、2021年は仲介サイトの増加と返礼品の増加で42,722件の約11億円の寄付があった。

札幌市では、皆様からいただいた大切な寄付金を札幌市のまちづくりに使っています。

- ◎地域活性化の促進
- ◎文化芸術交流の推進
- ◎観光振興の推進
- ◎社会福祉の推進
- ◎まちづくりの推進
- ◎防災・防犯の推進
- ◎環境・自然の推進
- ◎国際交流の推進
- ◎子育て支援の推進
- ◎高齢者福祉の推進
- ◎スポーツ振興の推進
- ◎防災・防犯の推進
- ◎文化芸術交流の推進
- ◎観光振興の推進
- ◎社会福祉の推進
- ◎まちづくりの推進
- ◎防災・防犯の推進
- ◎環境・自然の推進
- ◎国際交流の推進
- ◎子育て支援の推進
- ◎高齢者福祉の推進
- ◎スポーツ振興の推進

札幌市ホームページより 寄付金を募集している事業

42

意識していないけれど、  
皆さんも市民参加に関わっています。

43

ワークショップ1

市民参加のイメージの共有

- ・どんな内容で市民参加をしたことがありますか？  
参加したきっかけや誰と参加したことがあるかも教えてください。

44

ワークショップ1の進め方

市民参加のイメージ

市民参加の形態	どんな参加をしたか？
意見で参加 ・アンケート ・説明会	市が主催の事業のアンケートに回答したことが 市が主催する事業のアンケートに回答したことが なかった
議論で参加 ・ワークショップ ・委員会・審議会	学生の時に、グループディスカッションに参加した 長官を委員として参加した。ただ、意見を言えない
活動で参加 ・町内会活動 ・NPO活動 ・ボランティア	子育てサークルの運営に関わったことがある 町内会活動は積極的に関わっているが、ボランティアは少ない
お金で参加 ・ふるさと納税 ・クラウドファンディング	家族でふるさと納税をしたことがある クラウドファンディングに参加したことがある

45

## ワークショップ2

### 市民参加を盛んにするためのアイデア

- どうすれば市民参加が盛んになるのかを具体的に考えてみます。
- 盛んになるとどのようなことが起きるかをイメージしてみましょう。

46

## 情報提供3

47

## 市民参加をもっと盛んにする事例


48

### 1. 活動参加のメリット

#### (1) 兵庫県尼崎市 あま咲きコイン

**活動で参加**

- 尼崎市では専用のアプリやカードを発行し、プリペイド型のチャージだけでなく、イベントやセミナーへの参加でもポイントが貯まる制度があります。
- このポイントは1ポイント1円として市内の加盟店で使うことができ、市民参加の向上と地域活性化を進めています。




49

### (2) 埼玉県鶴ヶ島市 まちづくりポイント

**活動で参加**

- 埼玉県の鶴ヶ島市でもポイントカードが発行されており、ポイントを貯め、商品券との交換や、自分の活動記録として活用されています。



発行団体	発行ポイント数	換取可能な商品・サービス
市民会館	1000ポイント/年	市民会館図書室の図書貸出券
スポーツ	3000ポイント/年	市民会館体育館の予約券
高齢者・若年者	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券
子育て	4000ポイント/年	市民会館公民館の予約券

50

### 2. 身近に気軽に市民参加オープンハウス

**意見で参加**

- 公共空間などを活用し、通りがかった人に声をかけて、積極的に意見を集める方法です。



札幌市 戦略ビジョンオープンハウス (地下歩行空間で実施)



丘珠空港の将来像(案)に関するオープンハウス (苗穂イオンモール)

51

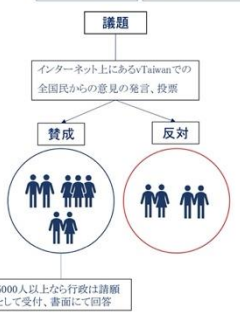
### 3. ITでゲームのように市民参加

#### (1) vTaiwan(台湾の事例)

**意見で参加**

**議論で参加**

- 「vTaiwan」は台湾に居住する国民なら誰でも意見を投稿したり、他の人の意見に「いいね」したり、コメントでディスカッションしたりできます。
- 一つの提案に5000人以上の賛同者が集まると、行政側は必ず請願として受け付け、書面にて回答を出さなければなりません。
- SDGsにまつわるもの、かつ幅広い部門が関わるような提案については、ステークホルダーと関連の政府部門が参加して、議論することになっています。




52

### (2) Decidim(アメリカの事例)

**意見で参加**

**議論で参加**

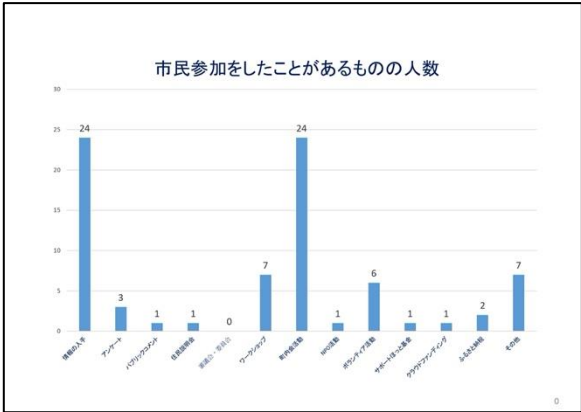
- Decidimは、2016年にバルセロナで誕生したオープンソースの参加型合意形成プラットフォーム。
- アメリカのニューヨークでは9歳から24歳の若者が参加でき、アイデアの提出・投票権を付与。投票には、紙の投票用紙・電話投票の手段もあります。
- ニーズ調査に対する回答者の中から抽選で50ドルのギフトカードが配られたりしています。



**アイデア**  
 例) たばこの吸い殻を捨てるごみ箱の増加  
 簡易トイレの設置  
 図書館の修理  
 花や木を植える...

**予算・優先順位決定**  
 図書館の修理...△△△△\$  
 簡易トイレの設置...□□□\$  
 ごみ箱の増加...○○○○\$  
 花や木を植える...××××\$

53



## ワークショップ 1

# 市民参加のイメージ

### 参加の経験、気づきや課題

- ワークショップを初めて体験した
- 町内会活動は情報が少ない気がする
- デジタルでの情報発信が大切

➡ 情報が必要

- 自ら参加するのはハードルが高い…
- 市が進める事業のアンケートに回答したことがある
- 学生の時に、グループディスカッションに参加した

➡ 機会や場が必要

- 市民参加することで、商品券や買い物に使えると良い
- デジタルとの連携もできる
- メリットが感じられると参加した実感もてるし、継続性につながる

➡ メリットが必要

# 市民参加をもっと盛んにするためには…

## ワークショップ 2

# 市民参加を盛んにするためのアイデア

### 市民参加をもっと盛んにする手法

**情報**

- 紙以外にもデジタルも活用する
- SNS(インスタグラム、LINE)を活用して届ける
- スマホで参加度合いが見れるアプリがあると実感できる

**場や機会**

- オープンソースでの意見交換、市政参加
- 市のアンケートもデジタルで回答できるようにする
- 子育てサロンと会議室を併設させる
- 若い世代を対象としたワークショップ

**メリット**

- 行政、NPOの事業、民間の事業にポイントをつける
- マイナンバーカードと連携させる

### 盛んになるとどんなことが起こるか？

こんなまちに

市民参加が進んだまち・札幌市

- 暮らしが豊かに
- 札幌暮らしが楽しい！
- 若い世代もまちづくりに参加
- 安全で安心なまち
- 子育てがしやすい

暮らしの課題の情報を入手・学ぶことができる ～情報

市民が暮らしの課題に気づく・気づく場が ～意見、情報

暮らしの課題について自由に議論ができる・意見が言える ～議論

課題解決のために行動・または支援ができる ～活動、資金

### 盛んになるとどんなことが起こるか？

指標になりそう

**情報**

- 市や区のホームページの閲覧数
- LINEやインスタグラム登録者数

**場や機会**

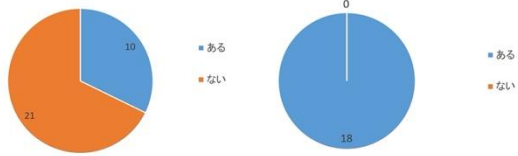
- アンケートで「市民参加を知っている」の割合、「市民参加したことがある」の割合
- 市主催などのワークショップへの参加数
- NPOの登録数
- まちづくり活動に関わるクラウドファンディングに支援した数

**メリット**

- まちづくりポイントの登録者数、ポイント付与対象の事業数、ポイント使用率

シールアンケートの結果

(ワークショップ前)市民参加をしたことが (ワークショップ後)今後も市民参加をしたいと思いますか





## 2 アンケート票

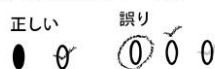
### 「市民自治を考える市民ワークショップ」 アンケート



今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

#### 〈回答用紙の記入方法のお願い〉

ご回答にあたっては、設問ごとの説明にしたがって、あてはまる○印に黒色インクの筆記用具でチェックをつけてください。その際、「1つに」、「あてはまるもの全てに」などそれぞれ指定されていますので、ご注意ください。



#### 質問1 「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1 0 大変満足      2 0 満足      3 0 不満  
4 0 大変不満      5 0 その他

(2) (1) で「大変満足」「満足」とご回答された方にお伺いします。

その理由は何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 市政に参加できたから      2 0 他の人の意見を聞くことができたから  
3 0 報酬がもらえるから      4 0 新しい気づきや発見があったから  
5 0 その他

(3) (1) で「不満」「大変不満」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 有意義な話し合いができなかったから      2 0 市政について理解できなかったから  
3 0 思ったより大変だったから  
4 0 その他

#### 質問2 情報提供について

(1) 市民自治に関する基礎情報や、先進事例の紹介などの情報提供について、

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 分かりやすかった      2 0 大変参考になった  
3 0 もう少し詳しく聞きたかった      4 0 よくわからなかった  
5 0 その他

(2) (1) で「よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。

あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 内容が難しい      2 0 説明が不十分  
3 0 用語が難しい      4 0 話が聞き取りにくい  
5 0 説明の時間が短い      6 0 その他

#### 質問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1 0 話しやすい方法だった      2 0 最初はなかなか言葉が出にくかった  
3 0 話しづらかった      4 0 その他

(2) (1) で「話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)



00000005s24

裏面に続きます



質問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。



- 1  市民自治への理解が深まった  
2  市民自治への関心が高まった  
3  自分の考えを整理することができた  
4  他の人の意見が参考になった  
5  意見を言うことの難しさを感じた  
6  特に何もなかった  
7  その他

質問5 市民が市政への参加やまちづくり活動について考え、意見を出すワークショップを実施することについて、どのように思われますか。あてはまるもの全てにチェックをつけてください。

- 1  市民の意見が反映されるので良いことだと思う  
2  専門家で実施した方が良いと思う  
3  より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う  
4  その他

質問6 今後もこのような取組に参加したいですか。最もあてはまるもの1つにチェックをつけてください。また、その理由は何ですか。(自由回答)

- 1  ぜひ参加したい  
2  参加したくない  
3  どちらとも言えない  
4  その他

【その理由】

[ ]

質問7 回答者さま自身について

(1) あなたの性別を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1  男  
2  女  
3  その他

(2) あなたの年代を教えてください。あてはまるもの1つにチェックをつけてください。

- 1  20代  
2  30代  
3  40代  
4  50代  
5  60代  
6  70歳以上

質問8 その他、ご意見・ご感想、ワークショップのあり方などについてご自由にお書きください。

[ ]

ご協力ありがとうございました。



00000005s3f

